

評価者のコメント

<事業名：外来生物防除等推進事業>

- 生物多様性の保全上、非常に意味のある事業だと思います。成果もあがっている。今後、低密度化した中で、いかに効率的に防除作業を進めるかを早急に示していただきたい（コンビニと同じように、どこに出店しても利益が出る時に比べて、飽和した時は企業間で戦略差、事業設計能力の差が出るので、これからは環境省の事業設計能力が問われる）。2年後ぐらいにもう一度、推移を公開して欲しい。
- ゴールを明確に示すべきである。個体数をゼロとするのではなく、絶滅可能（種の存続が不能）と予測できる個体数を目標として掲げるべきであろう。
- 防除により生息密度が低下してきているものについては、費用対効果も勘案し、捕獲方法を見直す必要がある。
- 国土交通省や水産庁等、他省庁が実施している事業と調整し、効果的な防除ができる方法とする必要がある。広域的に分布している外来種については、地方自治体との連携体制を確立する必要がある。
- マングースについては、このままでは効果が低く根絶は難しい。一旦やめて報償金制度に切りかえるべき。密度によって単価は変えること。少なくとも今のコスト構造は国民に理解を得られない。全体方針がないのは重大。
- マングースに関して、現時点の方法が最も効率的な方法であることを示すデータに欠けている。作業員が努力しているのか、インセンティブのある制度設計になっていない。作業内容などのデータ整備が必要。捕獲数に応じた支払い制度との比較検証も必要。現状維持のためにかかるコストなども推計し、根絶の確実性ととも根絶方針の是非を検討すべき。根絶をすとしても10年が望ましいという説得的なデータが必要。
- 理論的意義は認めるが、事業の対象となる基準が全く見えない。このままでは一定の予算額の範囲内で予算消費だけを漫然と続けることになりかねない。基準をできる限り明確化した上で事業の範囲を限定すべき。

評価結果

抜本的改善

（現状維持1人、一部改善2人、抜本的改善3人、廃止0人）

取りまとめコメント（要旨）

- マングースだけは、具体的目標がある。その他は、どこまで防除すれば目標・事業目的を達成できるか不明瞭。国費を投入するわけだから国民への説明責任を果たせるように防除、方法を工夫するなど予算縮減の努力をすべき。その仕組みが出来た部分は、他の外来生物対策に振り向けメリハリを付けるべき。